

令和4年第15回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

- 1 開催日 令和4年9月22日（木）
- 2 場 所 宝塚市役所 2－4・2－5会議室
- 3 開会時間 午後2時00分
- 4 閉会時間 午後2時35分
- 5 出席した委員の氏名
五十嵐 孝教育長、木野 達夫委員、望月 昭委員及び松浦 一枝委員
- 6 除斥した委員の氏名
- 7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

管理部長	高田 輝夫	教育企画課長	岡本 進
学校教育部長	坂本 三好	職員課長	奥田 利富美
学校教育室長	伴 康史	学校教育課副課長	片上 健太郎
学校教育次長	美除 浩	教育企画課係長	板垣 慎一郎
- 8 会議の書記
教育企画課事務職員 藤原 明穂
- 9 議題
 - 報告第9号 専決処分した事件の承認を求めることについて
 - 議案第24号 教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検及び評価について

会議の概要

開会 午後 ２時００分	
五十嵐教育長	それでは、時間が参りましたので、令和４年第１５回宝塚市教育委員会の会議（定例会）を開催いたします。傍聴希望の方はおられますか。
岡本課長	おられません。
五十嵐教育長	本日の署名委員は木野委員でございます。よろしくお願いいたします。 なお本日は、篠部委員から欠席の通知を受けております。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１４条第３項の規定により、過半数の委員の出席がありますので、本会が成立する旨報告いたします。 本日の付議案件は、報告事項１件、議決事項１件です。 それでは、進行について事務局からお願いいたします。
岡本課長	本日の付議案件は、報告事項１件、議決事項１件です。 なお、報告事項につきましては、個人に関する内容が含まれるため、非公開での報告とさせていただきます。 御審議のほどよろしくお願いいたします。
五十嵐教育長	それでは、今事務局から説明がありましたように、次の案件は非公開といたします。 報告第９号 専決処分した事件について承認を求めることについて、担当課より説明をお願いいたします。
【 非公開での報告事項あり 】	
五十嵐教育長	それでは、続きまして、議案第２４号 教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検及び評価について、担当課より説明をお願いいたします。
岡本課長	議案第２４号 教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検及び評価について、その内容を御説明申し上げます。 本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、市議会に提出すると

ともに、公表しようとするものです。

点検及び評価の方法としましては、令和3年7月に策定した、本市の教育の基本方針である『第2次宝塚市教育振興基本計画』に掲げる目標に対して、令和3年度に行った事務等が適正であるか、成果をもたらしたか等について、まず教育委員会事務局が48の施策ごとに自己評価を行いました。その後、本年度ヒアリングを実施する24施策について、教育長と教育委員、外部評価者の合同によるヒアリングを実施いただきました。

また、第2次宝塚市教育振興基本計画より、いじめ問題等の再発防止に向けた取組の評価についても行うこととしており、施策評価と同様に、自己評価の後にヒアリングを実施いただきました。

ヒアリング実施施策及び取組に関する意見に、外部評価者からの総合的な意見を付して、評価報告書としてまとめたものです。

なお、この評価報告書につきましては、10月に開催される決算特別委員会の審査に併せて市議会に提出するほか、広く市民に公表する予定です。

概ねの説明は以上でございます。お手元に冊子をお配りしているかと思います。概要をそちらで説明させていただければと思います。

めくっていただきまして、まず一番下にページ数をふっておりますので、そちらのページ数を御覧ください。

まず、1ページ目のところ「はじめに」につきましては、今申し上げたような内容を記載しております。5ページの事務執行等評価の一覧をずっと記載したものを載せております。今回につきましては、基本ほとんどの評価がAとBだったんですけれども、C評価になったものが6ページ7ページの一番下のところ、「子どもの健やかなからだづくりを応援します」と15ページ「発達段階に応じた体験活動を充実させます」トライやる・ウィークの分ですけれども、この分が最終的にC評価ということで記載をしております。その他のB評価になったものにつきましても、指標等の設定をちゃんとするようにというような意見をいただいているところです。

続きまして、18ページから総評1と記載されているものにつきましては、今回木野委員にお書きいただいたものになります。ありがとうございます。

続きまして、21ページから事務執行等評価について、窪田先生からコメントをいただいております。

特に取り上げるべきところとして、22ページの見出しで「教育委員および外部評価者によるヒアリングの実施について」というところの2段落目「教育委員と教育委員会事務局の評価の習熟もあつてか〜」のところの下の方に「教育委員の視点は多分に内部的なものとならざるを得ないとはいえ、教育委員には今少しの「客観性」「外部性」を意識した評価を望みたい。」というような御意見をいただいております。

また、次の段落の上から4行目あたりから、ただし書きのところですが「今年度から外部評価を行うスケジュールが半月ほど前倒しになり、それもあつてか各事務事業の実施実態がわかる資料の提供が外部評価の当日となり、次年度以降については改善を要求」ということで事務局に対して御意見をいただいているところです。

続きまして、22ページの下の方に、先ほど申し上げた「子どもの健やかなからだづくりを応援します」につきまして、C評価となっている部分を記載いただいております。

続きまして、24ページ上の方ですけれども、11－(3)「発達段階に応じた体験活動を充実させます」の評価C。こちらも先ほど申し上げた、トライやる・ウィーク部分での評価を記載いただいております。

特に申し上げるべきところとして、次の14－(2)「郷土資料の収集と情報の発信を進めます」につきましては、B評価となっておるんですが、当日の評価の場でもそうだったんですが、昨年度以前の外部評価が関係職員で共有されていないということが伺われるというようなコメントをいただいておりますので、その点は申し上げておきます。

そこから後は、当日配布させていただいた分も含めて、資料が続いているというところです。

当日配布した資料以外に、各施策評価の後ろに事務事業評価表とって、もともと市長部局が作っている評価がそれぞれの施策の後ろに全部付いている形で資料は作っております。

ページめくっていただきまして、255ページから取組評価の部分の資料を付けております。こちらは、春日井先生にお願いした部分になります。257ページから、春日井先生からいただいたコメントを付けさせていただいております。

柱ごとに評価をいただいておりますけれども、258ページの「子どものSOSに気づく力を高めます」に関する評価につきましては、検証委員と教育委員と一緒に市立校の全てを訪問してという部分で、具体的な検証の取組として評価ができるという記載をいただいております。

いじめの認知と初期対応については、認知件数の増加が見られて、初期対応に繋がる大きな前進だと。

ただ、不登校の児童が増加しているというような御指摘があり、決して樂觀できる状況ではないということで記載をいただいております。

この間の具体的な取り組みについては、小学校における専科教員配置の促進というようなところで取組の促進に期待したいということと、最後に「チューター制度」の導入等も検討に値するというコメントもいただいております。

続きまして、次のページの「子どもの主体性を育てます」に関する評価につきましては、「この間の具体的な取り組みに関しては」というところで、CAPの実施は、子どもの主体性を育てる取り組みに位置付けて、効果検証を行っていく必要があると。

また、トライやる・ウィークの取り組みについては、創意工夫ある取り組みが期待されるという記載がされております。

また、最後の段落、今後の課題の一つとして「校則改正」の取り組みがあげられるということで、校則の改正について記載をいただいております。

続きまして、3番目「部活動を改善します」に関する評価ですけれども、具体的な取り組みに関しましては、ガイドラインの改定であったり、育成指標作成であったり、「BUKATSUアンケート」の実施については、精力的に行われてきた点は評価できると。

しかし、これらの取り組みは、学校現場での議論を踏まえたボトムアップ

によるものではなく、教育委員会の主導によるものとなっている点は否めないということで記載をされております。

最後の方の段落に、教育委員会においては、顧問・コーチ等に対する研修会を開催し、部活動ガイドライン、育成指標等を理解していくこと。この点を踏まえて、技術、技能、知見を高めるだけではなく、人間形成の場として対話的、共感的な指導、支援を行っていく指導者養成の取り組みが期待されるなどの意見をいただいております。

続きまして、4番の「チーム学校で取り組みます」に関する評価ですが、この間の具体的な取り組みにつきましては、いじめ問題再発防止に関する行動計画の策定などにつきまして、精力的に図られてきた点は評価できると。ただし、いずれについても取り組みもまだ始まったところであるので、今後につきましては、重点課題にしていく必要があるというような御意見をいただいております。

最後になりますけれども、「子どもに対する体罰及びハラスメントを根絶します」ですが、この間の具体的な取り組みにつきましては、「部活動を改善します」あたりの記載とほぼ同様の内容となっております。いずれにつきましても、これらの取り組みも始まったところであるというような御意見をいただいております。子どもの声を聞き、検証に活かしていくことが重要というような御意見をいただいております。

概ねの御説明につきましては、以上でございます。よろしく御審議賜りますようお願いいたします。

五十嵐教育長

ありがとうございます。

事務事業評価については、委員の皆さまにもどつぷりと丸一日関わっていただきましてありがとうございました。この報告書もこれほど分厚いものとなっておりますので、ざっと目を通すというのなかなかのものですが、検証の時には、窪田先生や春日井先生からも色々なことをお伺いしておりますので、ここの文面にもそれが網羅されているかと思います。

まずは、今の報告につきまして、何か御質問等ございますでしょうか。

松浦委員

すごく素朴な疑問なんですけれども、窪田先生は公共政策学の教授でいら

- っしゃるんですけども、教育行政の評価という時に普通に費用対効果みたいなもので計れないものがやっぱり教育だと思うんですね。そのところ、私はちょっと違和感がありまして、どうして教育の専門家ではない方に評価をいただくのかなというところは、少し疑問に思うところなんですけれども。
- 五十嵐教育長 確かに評価の場面でもそういう場面がありましたね。事務局の説明と窪田先生とでやり取りがありました。
- 窪田先生には、8年ぐらいお世話になっているんですかね。
- 岡本課長 そうですね。相当長い期間。
- 五十嵐教育長 当時のなぜ窪田先生にというのは、私どもでは分かりにくい部分があるかもしれませんが、何かそういう資料は残っていますか。
- 岡本課長 すみません、今ちょっと手元には持ち合わせていないんですけども、どうしても行政評価自体を市長部局の方もやっているというのもありまして、市の施策なり何なりの評価全般というのをある程度全体のバランスをとっていくというところを考えると、ある程度同じ方をお願いする、同じ方の視点で見ていただくというのがあったのではないかなと推測はするんですけども、すみません資料を持ち合わせておりませんので、ちょっと認識が違う部分があるかもしれませんが、こちらとしてはそういう認識をしております。
- 松浦委員 その8年前までは、どういう方が評価されていたかというのは。
- 岡本課長 もともとやっていない。そういう制度自体がなかったのではないのかなと。特に外部の方を入れて評価をするという仕組み自体がそもそもなくて、それだとやっぱりまずいだろうというところもあって、こういう外部の方を入れた評価をするという仕組みが出来上がってきたのも恐らくこの10年前後ぐらいのところだと思います。
- 五十嵐教育長 窪田先生は、最初は市の方の外部評価をされていたんですかね。
- 岡本課長 当時の経過をはっきりまだ調べられていないんですけども、どちらかというと教育委員会の方が先だったのではないかなと。
- 五十嵐教育長 こっちが先ですか。
- 岡本課長 はい。
- 五十嵐教育長 理由はハッキリしないですけども、私も以前窪田先生に評価をいただい

た時に事務局にいたことがありますので、一定、教育の内部評価ということになりますと、やはり指導主事、元々先生だったという方が多い中での評価になりますので、ちょっと甘いのではないかといいところもありまして、しっかり外部の方に評価していただくことも必要だということでこういう制度があると思うんですね。その際に窪田先生のような、分かりやすく言えば費用対効果。これだけのことをやるのに、これだけやっているのに、その成果がないというのはどういうことみたいなことを厳しく、一定そういう指摘も教育には必要なのではないかといい判断があったのではないかと思います。だから私は、この執行等評価の時にも度々申し上げたと思うんですけども、私の印象では、窪田先生はもっともっと以前は厳しい「そんなことを言われても」というようなことをおっしゃっていたんですが、私個人は随分と教育のことを理解していただくようになったなと思っていました。

松浦委員 そうですか。

五十嵐教育長 ただ、この間は窪田先生もとてもこだわっていらっしゃいましたよね。ずっと言っているのに、結局教育委員会の施策が全然変わらないみたいなことを。そこは、たぶん来年もお願いすることになれば言われる部分だろうなと思います。

岡本課長 補足させていただくと、教育委員会の評価につきましては、窪田先生がこの中の評価でも記載されているんですけども、市長部局でやっている行政評価から分離した形で、ここの部分の評価はほとんど市長部局の評価の中には入っていない。教育委員会独自でやっていますので、窪田先生のお話の中にもあったかとは思いますが、仮にこれが全部市長部局の中での評価になった時に、松浦委員がおっしゃっていただいたような教育の視点で評価していただくことは当然必要だとは思いますが、今教育長がおっしゃられたような費用対効果みたいな話がもっと全面に出た評価に場合によってはなるのかなという部分はあるかと思います。そこが、良いか悪いかというのは分かりませんが。

松浦委員 教育の評価軸があまりにもそっちに寄るのはちょっとどうかと思うんです。

五十嵐教育長 そうですね。ただ、事務執行ということなのでどうしても予算が絡んでく

ることなのでそういう面では、いくら教育だから費用対効果だけでは計れないと言ったとしても、何がどう変わっていったかといった説明だとか、やはり出す側の市としては、やはりそれだけの値打ちがあることをやってもらっているというようなものが目に見えなくては、それは困るということは度々言われますね。

岡本課長

特に文化財行政の分が非常に難しい部分が、学校の中の方はまだ費用対効果という部分も、言いづらいですけれども。文化財とか文化行政の部分に関しては、元から割と意見としては厳しめだったようです。

五十嵐教育長

とは言いまして、文化財についてもやっぱりみんなの共有財産ですし、そういう文化というのは大事な部分ですから、単にここにこれだけのお金をかけるのはいかなものか、というような判断だけでいくのかなというのは、私も個人的には思います。もう少しそこは、値打ちについても認めていただきたいなという思いはあります。

ただ、いま課長が言ったように教育の中身については、窪田先生そんなに文化財について厳しいことをおっしゃられたようなスタンスでは今回なかったと私は思うんですけれども。

他にも質問、御意見どちらでも結構ですので、一旦みなさんで評価していただいて出てきたものですけれども、この際、いま松浦委員がおっしゃったように評価全体を通して、御意見があればお出しいただいたらいと思います。

望月委員

一つだけ。今回、どうしても対コロナじゃないですけれども、コロナというものを無視できない様子でしたけれど、コロナだけどよくやったと捉えるのか、もうちょっと良くできたなと捉えるのかというのが人それぞれ、現場それぞれみたいなのところがあるんですけれども、一応みんな必死にやっていたので、まあしょうがないのかなというのは土台にはあるような気がするんですが、もっとやりようがあったのかなとかそういう感じでその評価に結びついているのかなという気はしますね。

トライやる・ウィークに関して、やっぱり揺らいでいるというか辛口の点がついてしまったのは、もっとやりようがあったんじゃないかと思った人が多かったんだなという印象はあるんですけれども、それ以外の部分に関して

は、コロナで足を引っ張られているけれど、それにしても良くやったし、むしろICT化なんかは、コロナであるがゆえに進んだみたいなのところもありますから、そこをどう捉えるかというのを本当に視点の持ち方でころころと変わるようなところがありますから、一つの形としての結論を出していますけれども、翌年以降はちょっと考えていかないといけない部分だとは思いますが。

五十嵐教育長

トライやる・ウィークは、今回コロナのことがあって、内容が職場体験一色というような形になってしまっているということが逆に浮き彫りになってですね、トライやる・ウィークは、本来趣旨からいけばそこだけではないんですけど、学校サイドから言わせれば、そう成らざるをえなかったと、これまで。ずっとそれできたのが、今回コロナのことがあって、事業所が一遍に手を引かれた部分があって、従来の様にはできなかったということは、明らかになってしまったので、確かに評価としたらもう少しやっぱり別の視点で取り組むことも必要ではないかと言われれば、もうその通りだと思います。それでもトライやるも頑張りましたよね。宝塚、結構今のところ多くの中学校では、従来の様な形に近い形で今年度は、今のところやっています。保護者、地域の方がそれだけ一生懸命ご協力くださったということだなと思います。

他に御意見、御質問ございませんか。よろしいでしょうか。

委員

(なし)

五十嵐教育長

それでは、この評価につきましては、議会にもそれからホームページ等にも公開もされますので、よろしくお願いいたします。

議案第24号 教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検及び評価については、原案通り可決とさせていただきます。

それでは、本日予定の案件は以上ですが、他に何か御報告いただくことはありますか。

岡本課長

ございません。

五十嵐教育長

それでは、本日の教育委員会はこれで閉会といたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 2時35分